

Poster Presentation

[PG02] ポスター発表（一般 B:コアタイム1）

Sat. Mar 30, 2024 11:30 AM - 12:30 PM Sakura (Regular) (Sakura)

[PG02-15] 緑肥作物によるニラのネダニ類に対する密度抑制効果の検証

○Yu Kobayashi¹, Naoto Haruyama¹, Satoka Nozawa¹ (1. Tochigi Agricultural St.)

栃木県のニラは栽培期間が約2年間と長く、同一ほ場で連作されることから、土壌害虫のネダニ類(主にロビンネダニ)の被害が発生しやすく問題となっている。また、防除は主に化学農薬で実施されるが感受性低下の懸念があり、化学農薬代替技術の開発が求められている。昨年に続き、緑肥作物すき込みによるネダニ類の密度抑制効果を検討した。ニラ栽培後のネダニ類汚染ほ場に、無処理区(裸地)と、ハゼリソウ及びライムギを播種した緑肥区を設けた。緑肥は十分に生育した播種64日後にすき込み、同時に無処理区も耕起した。全区かん水後、農業用ビニルで被覆して22日間腐熟させた後に、ニラ苗を定植した。ネダニ類は、ツルグレン装置で土壌及びニラ株から抽出し密度指数を求めた。調査は播種前から収穫開始前まで計7回実施した。無処理区でネダニ類の増加が認められた定植16及び20、24週間後の緑肥区の密度指数(平均値)はライムギ(29.2)、ハゼリソウ(48.7)の順に低かった。収穫開始直前(11月)の密度指数はライムギが58.0で最も低く、昨年度の試験結果と同様であった。このため、ネダニ類の密度抑制にはニラ定植前のライムギ栽培・すき込みが有効と考えられた。